

## 令和 4 年度 卒業時満足度調査 結果と分析 -カリキュラム編成・運用・DP について-

### 1. 調査方法の分析

#### 1) 調査期間

令和 5 年 3 月 9 日～3 月 17 日

#### 2) 対象

令和 5 年 3 月卒業見込 4 年生 103 名 (2019 年度入学生)

#### 3) 方法

Google form を活用。

前年度に引き続き、教務委員会委員数名により、アンケート概要および回答の操作説明を行った。また、卒業式前日に行われた説明会の際、最初に本調査の時間を取り回答を依頼した。

#### 4) 結果

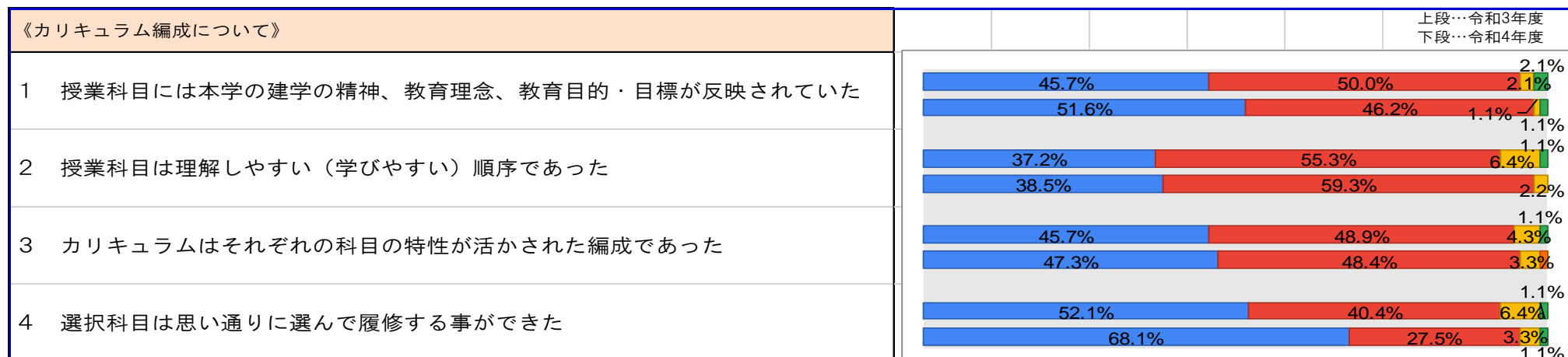
回収率 88.3% (回答数 : 91 部)

### 【考察】

R2 年度から Google フォームを活用し、学務課よりアンケート回答依頼をしたところ回収率が 78.6%へ低迷した。そのため、R3 年度から教務委員会委員数名による本調査の概要や回答方法の説明巡回の実施およびリマインドメールにより、昨年度は回収率が 85.5%まで上昇した経緯がある。R4 年度は、前年度に引き続き委員数名による概要説明の実施および必ず 4 年生全員が集まる場において回答時間を設けたことで、期日前に回収率が目標値 85%を超えたと考えられる。以上より、次年度以降も委員による概要説明および回答時間の確保をすることで回収率上昇が望めると考える。

## 2. 結果概要と分析

### (1) カリキュラム編成について



(以下、カリキュラム編成に関する自由記述)

- ・自由さは無かった
- ・カリキュラムが変わった学年との変更点をもう少し詳しく知りたいと思った
- ・一年生の頃に疾病論など単位の取りにくい教科がたくさん被っていて、テスト勉強しにくかった
- ・1セメスターから看護学技術の実技が授業で学べたのはとても良かったと思います。ほかの看護学校に通っている子は1年生の時は座学ばかりでつまらないと言っていたのでこの点はとても良かったと思います。

#### 【考察】

各設問について「そう思う」「どちらかというと思う」を選択した学生の割合 ※過去3年間のデータとの比較

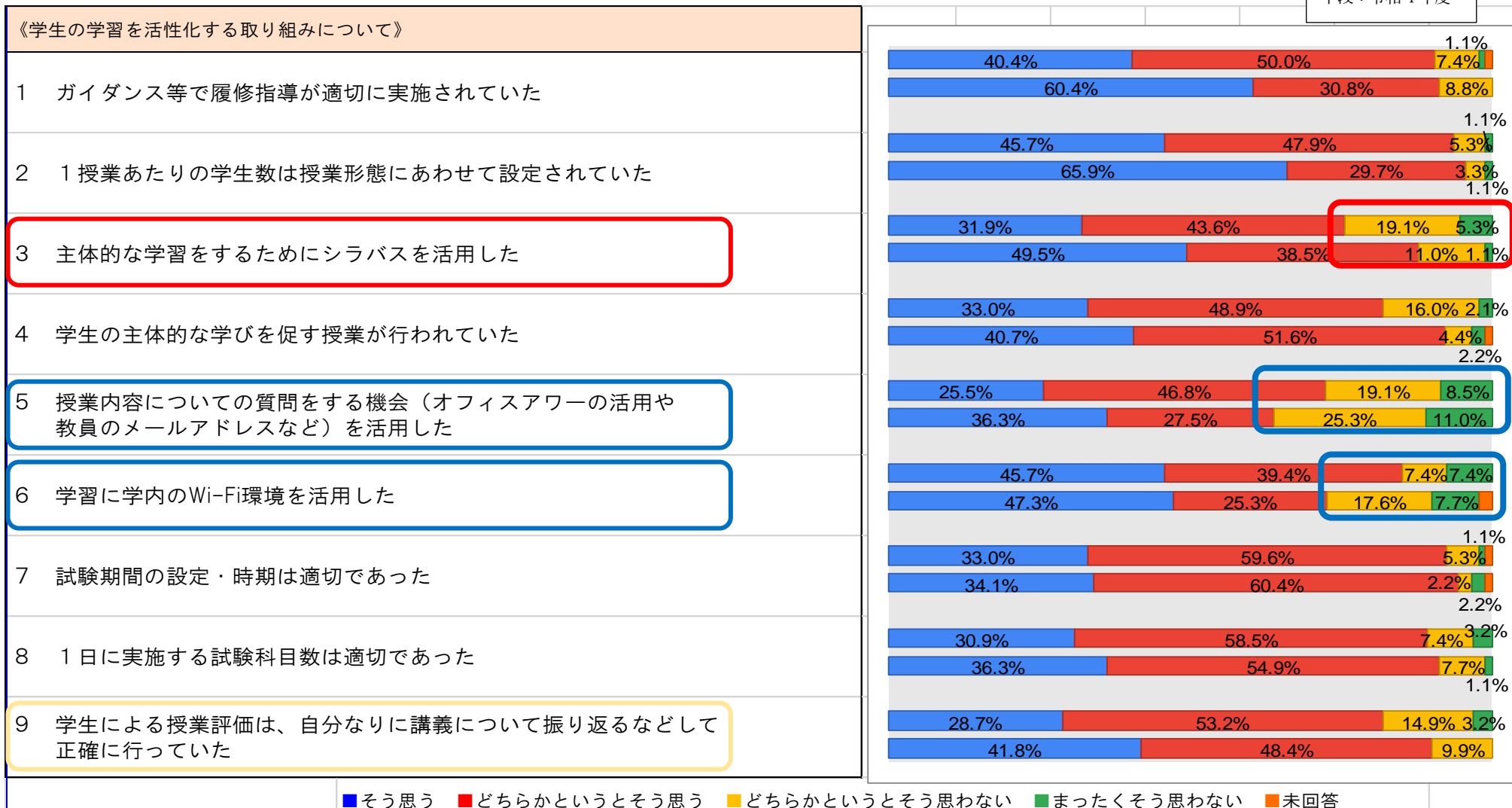
	R4年度	R3年度	R2年度	R元年度
1. 授業科目には本学の建学の精神、教育理念、教育目的・目標が反映されていた	97.8%	95.7%	90.9%	94.9%
2. 授業科目は理解しやすい順序で合った	97.8%	92.5%	92.3%	87.3%
3. カリキュラムはそれぞれの科目の特性が活かされた編成であった	95.7%	94.6%	92.2%	92.3%
4. 選択科目は思い通りに選んで履修することができた	95.6%	92.5%	87.0%	93.2%

2018年カリキュラムのR3年度卒業生は、前年度よりすべての項目で肯定意見が上昇。R4年度もすべての項目で上昇がみられ、カリキュラム編成は適正であったといえる。R3年度までは、1・2年次生の授業の過密性を指摘する自由記載がみられていたが、R4年度では試験期間中の勉強時間の確保のしづらさの指摘にとどまっている。この点については、引き続き試験日程の重複に留意することとする。また、看護を志望して入学してきた学生にとって、1年次生で看護技術に触れる授業が設けられていることはモチベーションを維持するうえで重要と思われた。

## (2) カリキュラムの運用、学生の学習を活性化する取り組みについて

上段：令和3年度

下段：令和4年度



(以下、学生の学習を活性化する取り組みに関する自由記述)

- ・Wi-Fiが弱すぎました！
- ・Wi-Fiが弱すぎるため使えない。
- ・コロナ禍もあり、学校にほとんど来ていなかったので学校を利用した学習は比較的無かったように感じた。学校に来ていないのに学費が通常のままだったので、費用面

でももう少し工夫が欲しいと感じた。

・先生によって、Google 機能等での利便性向上を目指す方もいれば、紙ベースな方もいるのでここまで機能が充実しているのであれば、希望制で紙ベースを配布することを検討しインターネットを活用して行ってほしかった

### 【考察】

項目3“シラバスの活用”について、「どちらかというと思わない」「まったくそう思わない」という否定的な回答をした学生の割合は、R3年度24.4%であり、シラバスの活用周知の必要性が述べられていた。R4年度では、否定的な回答割合は12.1%へ減少した。シラバス活用周知を教員が意識したことに加え、Webシラバスが入学時より導入されていた学年であることが影響していると考えられる。入学時より、シラバスは紙で配布されるものでなく自らWeb上で確認するものという認識を持つことができていたと思われる。

項目5“オフィスアワーやメールアドレスの活用”については、活用していない学生の割合が増加した。コロナ禍によりオンライン授業が多い学年であったことから、教員にアポイントを取り研究室に伺うという機械が少なかったことがうかがえる。ClassroomやZoom、チャット機能の活用など、教員とのやり取りの方法が多様化しているため、媒体を活用しつつ学生が質問しやすい機会の確保に努める必要がある。

項目6“学内Wi-Fi環境の活用”について、活用していない学生の割合が増加した。前述した通り、学内に来る機会が少なかった学年であることが一因と思われる。一方で、自由記載にあるように、学内Wi-Fi環境の弱さを指摘する声もあるため、インターネット環境改善により利便性を高める必要がある。これについては、4月下旬にインターネット回線増設が完了したことから、今後の学内Wi-Fi環境は改善が見込まれる。

項目9“学生による授業評価”について、未回答なく全員回答している。しかし、右表のとおり、前期授業評価アンケート回収率はすべて50%を下回っており、項目9に回答した学生全員が授業評価アンケートを提出したとは考えにくい。(後期授業評価アンケートは6月以降に開示予定)よって、項目9の必要性について検討する必要がある。

それ以外の項目については、概ね例年通りの結果であり、学習環境や試験日程は肯定的な回答が多かった。

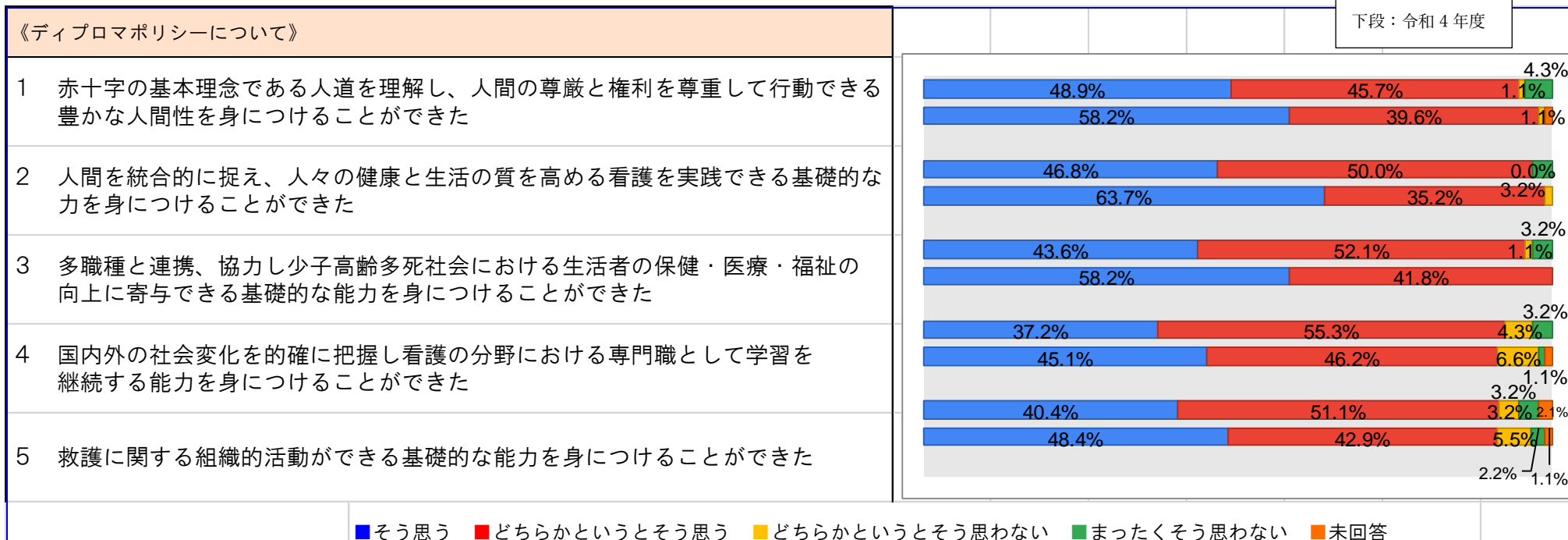
令和4年度前期授業評価アンケート回収率

科目	非常勤	学年	回答率
公衆衛生看護学Ⅳ公衆衛生看護管理論		4	9.5%
赤十字幼児安全法(B)4年生		4	2.8%
看護生命倫理学	●	4	10.8%
★成人看護学実習Ⅰ(4年次)		4	33.3%
★成人看護学実習Ⅱ(4年次)		4	34.9%
★老年看護学実習Ⅰ(4年次)		4	9.3%
★老年看護学実習Ⅱ(4年次)		4	11.6%
★小児看護学実習(4年次)		4	33.3%
★母性看護学実習(4年次)		4	30.8%
★精神看護学実習(4年次)		4	40.5%
★統合実習		4	5.8%
赤十字ボランティア演習		1～4	48.1%

### (3) DP について

上段：令和3年度

下段：令和4年度



#### 【考察】

いずれの項目も前年度と同様の傾向がみられ、DP を達成したと感じている学生が多いことがうかがえる。自分が受講している授業は、DP のどの項目に当てはまるのか認識することで肯定的な回答割合は増加すると思われ、第1回目授業開始時にシラバス説明の時間を設けることは学生のDP達成感につながると考える。引き続き、学年ガイダンス時のDP説明時間の確保、授業毎のシラバス活用について授業担当教員および学生へ周知していく。